

人にやさしく暮らしやすい 町づくりに最も大切なことは

大垣照子 議員

町長 暮らしやすい環境整備に積極的に取り組みたい



問 若者定住には、職場が必要。町長は、これまでに働き場は沢山あると発言されているが、具体的には。

答 町内に本社がある会社や誘致企業等、相当数あると思っていますが、更に努力が必要と思っています。

問 本町には、高校や大学を卒業しても働く場がなく、やむなく町を離れる若者が多い。このギャップをどう考えるか。

答 高学歴の皆さんの就職場は、主に大都会が主体と認識。しかし、就職状況も厳しく大学卒業後、

帰郷を希望される方もあり、本町は、自然に恵まれ子育て環境もよく、帰郷運動も住民と一緒にやらねばと思っています。

問 収入がないと、生活も結婚も子どもも産めない悪循環が起きている。例えばこの町で起業したい人に大きな支援ができないか。ある自治体では、1000万円の起業家支援を打ち出したところもある。後に繋げるために、思い切った予算を付けたらどうか。

答 大事な視点であり、ファンドの原資問題も含め十分検討したい。

問 検討だけに終わらせないで実現を。このままでは、高齢者のみの世帯は、益々増加する。住み慣れた地域で安心して暮らすことができる、「人に優しく暮らしやすい町づくり」には、行政として何が最も大切と考えるか。

答 本町の高齢者の方は、元気なら畑仕事ができ、全国レベルで考えると恵まれていると思っています。生活基盤整備など暮らしやすい環境整備には、積極的に取り組みたい。

問 高齢者の困りごとの第1位は、除雪。飯南町では、町の雪害対策本部が設置された場合に、高齢者住宅緊急除雪補助金制度を創設された。家がつぶれると人命が失われる危険性がある。本町でも制度創設の考えは。

答 雪降ろし(屋根)は、危険が伴い除雪隊の確保も困難。飯南町の制度については、資料を取り寄せ次の冬以降、導入の検討をさせたい。

問 安全性の確保や防災対策、景観保全の面からも、狭隘な道路の整備や町道沿いの大きな雑木、繁茂する竹の伐採が必要。住民の方々は、生活に密着したことや困ったこと、どうしても自分の力ではできない事について、行政サービスを求められている。どう考えるか。

答 どの様な取り組みが良いのか、自治会長さんや地域の皆さんとの話し合いの中で、小さいところまで手が届くよう支援を進めたい。

問 消防団の再編について伺う。消防団の部数や車輛台数、団員確保の苦労

初動体制など現状に合わせ、機能的に活動できる消防団の再編が必要ではないか。非常事態発生時に勤務地が遠く、出動に間に合わないこともあるようだ。町消防団との検討は当然だが、現状をどの様に考えるか。

答 消防団や自治会の方々と連携を図り、地域の方々の心ざわしい自主防災組織の推進を図りたい。

問 一番いいのは、団員が沢山いて非常時対応が即座にできること。車輛の更新にも費用がかかり、団との相談を。

答 部の人員構成問題など、弾力的な再編の検討について、団本部の方にも私から提案してみたい。

問 県消防操法大会出場への団員やその家族の負担が大変との声がある。再検討が必要ではないか。

答 大変さはよく分かりますが、団の士気に関わることで、負担軽減に取り組み操法大会への参加は、続けたい。

※ 災害救助や消火活動などの訓練は当然だが、このような声も頭に置いて考えられたい。